



去ってゆく一年の後姿に「ご苦労さん、ありがとう、なまげ心に曳きづられて十分にできませんでした。ごめんなさい」と声をかけると、一年が振り返り、何と云ってくれるだろう。「あ、わかってるよ、その位がお前さんだろ。十分ではないか？ ナムアミダグツに遇わせていたたいてナムアミダグツになったかぬ？ 退かないように心算しているよ。浄土からの一本道だけか、浄土への一本道だからぬ」

来年は72才になります。

罪障 功德の体となる

こおりとみずのごとくにて

こおりおおきに みずおおし

さわりおおきに 徳おおし

こんな不思議な本願海を口味あったような気がしませんので、つい何こうに眺めてしまいます。本願海がこの身を生きる最上の世界だと思います。既にして本願に招かれていることを忘れていたかも知れません。

「よいお年を！」なんて言いません。いたたぐところか、この身にふさわしい内容です。

この身に返って、この身をいたたいてゆきましょう。

掌を合わせれば、あらわれゆく

不思議なる この世かな

かたじけなき 煩惱の世かな (八木重吉)

去り初より 我に離れぬ菩薩あり

御名實をまればより 慕いてきたり 南無がみかたに